
この物語はフィクションです

紅 あげは

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

この物語はフィクションです

【Nコード】

N5817C

【作者名】

紅 あげは

【あらすじ】

ストーカー行為を繰り返し、最後に射殺してしまった警官の物語。

3 回目のニュース

真実の愛――警察官ストーカー物語。

ボクこそが、陽子に、『真実の愛』を与える。

陽子の体が欲しい、などという、動物の欲求とは、次元が違うのだ。ボクが繋がるのは、そう、陽子の魂。

陽子はまだ、人間のレベルが幼くて、『真実の愛』に気づくまでに、至ってない。

だけど、そんなことは問題ないこと。

ボクと繋がれば、陽子のレベルは、ボクと同じところまで上げれる。陽子。

さあ今日こそ、魂で繋がろう。

ボクは、陽子には内緒で作った合い鍵を使って、陽子のマンションに踏み込んだ。

陽子は、荷造りをしながら、レベルの低い言葉をボクに浴びせる。

「アナタから離れたいから、故郷に帰る！アナタのしていることは、立派な犯罪よ！警官がストーカーだなんて、最悪！」

陽子の罵声は、心地よい小鳥の囀りだ。

魂のレベルの低いものが、レベルの高いものに遭遇したとき、誰でも反発するものなのだ。

それまでのアイデンティティを否定される訳だから、それが普通の反応。

でも大丈夫だよ、陽子。

ボクと一つになったときに、次元の高い新しいアイデンティティに気づくことになるんだよ。

「アナタ、勝手に合い鍵作って、なんどもここに来てるけど、それも犯罪だってこと、アナタ警官なんだから、分かるわよね？今日限

りでアタシと関わらないって約束してくれるなら、訴えないわ。だけど、プレゼントのヴィトンのバッグとかは、返さないわよ、慰謝料なんだから！」

なんだ？今の言葉は？

レベルの度合いが、低すぎやしないか？

いくらボクでも、そこまで低いと、救えないかもしれない。

陽子。

ボクが救えないなら、誰も君を救えないよ。

そんなレベルのまんまで生きていても、不幸なだけさ、悲劇なだけさ。

悲劇の幕引きは、ボクがしてあげよう。

それも「真実の愛」の、ひとつだから。

心配しないで、陽子。

君を独りぼっちには、決してしないから。

君と共に、ボクも旅をするよ。

あっちの世界で、繋がりはあおう。

陽子、こんなにも愛しているよ。

ボクは、拳銃を取り出した。。。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5817c/>

この物語はフィクションです

2011年1月7日15時12分発行